

- 問1 九州地方北西部の長崎県などに典型的に見られる、小さな岬と奥行きのある湾が複雑に入り組んで連なる海岸地形を何というか、名称を答えなさい。(2023年 佐賀公立入試 類似)
1. リアス海岸 2. 干拓地 3. 砂州 4. カルデラ
- 問2 日本の各都道府県の統計において、長崎県は「面積が全国37位であるのに対し、海岸線の長さが全国2位である」という極めて特徴的な数値を示しています。この事実から推察される長崎県の地理的状況として、最も適切な説明はどれですか。(2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 宍道・対馬・五島列島などの離島を多く抱え、本土もリアス海岸のように屈曲に富んでいる。 2. 筑後川の下流に広がるような広大な平野をもち、海岸線には砂浜が単調に続いている。 3. 山地が海岸近くまで迫っているが、海岸線自体は隆起によって直線的な形状を保っている。 4. 県全体が一つの大きな半島であり、海岸線のほとんどが岩場のない滑らかな曲線である。
- 問3 沖縄県が国際的な航空貨物輸送の拠点（ハブ）としての役割を担っている理由について述べた説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。(2024年 栃木公立入試 類似)
1. 日本国内の消費地が近いため、国内向けの新鮮な農水産物を迅速に輸送するのに適しているから 2. 東アジアの主要都市から約4時間以内の距離にあるという、地理的な中心性に優れているから 3. 空港周辺に大規模な自動車工場が集積しており、部品の輸出を効率的に行う必要があるから 4. 冬でも温暖な気候を利用して、海外から輸入した熟果実を一時的に保管するのに適しているから
- 問4 日本の品目別の食料自給率と小麦生産の実態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2021年 長野県公立入試 類似)
1. 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。 2. 小麦は米と同様に自給率が非常に高く、国内の需要をほぼ賅うことができているため、九州地方の全県が収穫量で全国トップ10に入っている。 3. 近年、米の自給率は小麦と同程度の10%から20%まで急落しているが、それを補うために福岡県や熊本県といった九州地方での小麦増産が進められている。 4. 日本の小麦自給率は極めて低いため、国内での生産は北海道のみに限定されており、九州地方などの他の地域ではほとんど生産されていない。
- 問5 日本の南西諸島に見られる自然環境について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。沖縄県や鹿児島県の奄美大島において、新しい観光資源としても注目されている、亜熱帯地域の海岸付近や河口の湿地に見られる樹木群の名称を含んだものを選びなさい。(2022年 沖縄公立入試 類似)
1. マングローブは、塩分を含む水域に適応した樹木群であり、独特の生態系を形成している。 2. サング礁は、河口付近の泥が堆積した湿地において、樹木とともに森を形成している。 3. ブナの原生林は、亜熱帯の海岸付近で見られる代表的な植物であり、湿地帯に自生している。 4. 針葉樹林は、温暖な気候の南西諸島において、海岸線の砂浜に広く分布している。
- 問6 九州地方南部に位置する鹿児島県では、第1次産業の就業人口割合が約9.5%と全国平均に比べて高く、農業が盛んです。この県の土地利用の特徴として、耕地面積に占める畑の割合が約68%と非常に高いことが挙げられますが、このように畑作や畜産が中心となった主な理由として正しいものはどれですか。(2018年 東京都公立入試 類似)
1. シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に向かないから。 2. 平野部がほとんど存在せず、急峻な傾斜地を利用した果樹園の経営が中心となったから。 3. 夏の降水量が極端に少なく、大規模なため池を作ることが技術的に困難であったから。 4. 冬の積雪量が多く、1年の半分以上を農作業に充てることのできない気候特性があるから。
- 問7 九州地方南部に位置し、薩摩半島側の沿岸部に石油備蓄基地が立地している県について、その交通環境や都市整備に関する記述として最も適切なものを選択してください。(2020年 東京都公立入試 類似)
1. 県庁所在地では路面電車の軌道を芝生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。 2. 県庁所在地では地下鉄網が発達しており、路面電車はすべて廃止され、バスの利用も極めて少ない。 3. 2004年に九州新幹線が開通したが、県庁所在地周辺にシラス台地が存在せず、すべて平坦な低地に住宅地が広がっている。 4. 石油備蓄基地のある西側の半島には鉄道が一切通っておらず、主要な交通手段は船舶のみに限られている。
- 問8 ある地域に関する統計資料において、人口増減率がプラス〇点四七パーセントを示し、製造品出荷額が他の地域と比較して低い一方で、海面漁業や畜産の産出額が一定の規模を持つ都道府県はどこですか。(2024年 山形公立入試 類似)
1. 沖縄県 2. 北海道 3. 東京都 4. 鹿児島県
- 問9 九州地方の火山に関する地理的事象とその影響について、背景や理由を含めた記述として最も適切なものはどれですか。(2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。 2. 活火山周辺では噴火による降灰被害を防ぐため、広大なカルデラ内は居住や農業が厳しく制限され、主に無人の発電施設のみが設置されている。 3. シラス台地は養分を豊富に含んだ火山灰で構成されているため、肥料を与えずとも高い収穫量が得られることから、九州最大の野菜供給地となっている。 4. 火山地帯は地盤が非常に強固であるため、大規模な工業団地や製鉄所の建設に適しており、北九州工業地帯の発展を支える要因となった。
- 問10 九州地方南部の地形図において、標高の高い平坦な場所に「畑」や「茶畑」の地図記号が集中して見られる地域があります。この地域の土地利用の背景として、土壌の性質の観点から説明したものととして適切なものはどれですか。(2017年 滋賀公立入試 類似)
1. 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。 2. 土壌に栄養分が極めて豊富であり、一度の作付けで多量の米が収穫できるため。 3. 標高が高く冷涼な気候であるため、寒さに強い果樹の栽培に特化している。 4. 海岸に近く塩害の影響を受けやすいため、塩分に強い農作物のみを栽培している。
- 問11 九州地方の熊本県に位置し、火山の噴火によって形成された世界最大級の凹地（盆地状の地形）である「カルデラ」を持つことで知られる活火山を選びなさい。(2016年 三重公立入試 類似)
1. 阿蘇山 2. 雲仙岳 3. 桜島 4. 霧島山
- 問12 熊本県の農業産出額の内訳を分析したとき、野菜と畜産の産出額がいずれも1,100億円を超えている状況から読み取れる、この地域の農業の強みとしてふさわしい説明を選びなさい。(2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 野菜と畜産の両方で高い産出額を維持しており、多角的な農業経営が実現されている。 2. 米の産出額が他の品目を圧倒しており、単作地帯としての特色が強い。 3. 野菜の産出額は高いものの、畜産や果実の生産は減少傾向にあり、特定の品目への依存が進んでいる。 4. 農産物の輸出に特化しているため、国内向けの野菜や畜産の生産額は極めて低い。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 リアス海岸	山地の谷の部分に海水が入り込むことで形成される、のこぎりの歯のような複雑な海岸線を指します。長崎県の北松浦半島周辺や長崎半島周辺で顕著に見られ、水深が深く波が静かなため、養殖業や天然の良港として利用されることが多いのが特徴です。選択肢にある「干拓地」は有明海などの遠浅の海を陸地化したものを指し、「砂州」は波の作用で砂が堆積した地形を指します。
問2	答え 1 杵岐・対馬・五島列島などの離島を多く抱え、本土もリアス海岸のように屈曲に富んでいる。	面積が小さいにもかかわらず海岸線が長いということは、幾何学的に「形が複雑である（凹凸が多い）」、あるいは「孤立した陸地（島）が多数存在する」ことを意味します。長崎県はこの両方の条件を満たしており、特に島嶼（とうしょ）部の多さは海岸線距離を押し上げる最大の要因となっています。一方で、平地は少なく、海岸付近まで山地が迫る複雑な地形が形成されています。
問3	答え 2 東アジアの主要都市から約4時間以内の距離にあるという、地理的な中心性に優れているから	沖縄県は、東京、ソウル、上海、台北、香港、マニラといった東アジアを代表する主要都市から、概ね4時間以内で到達できる範囲内に位置しています。この地理的メリットは、貨物機が各地を往復して荷物を集約・再配分する航空貨物輸送の効率を最大化させるため、国際的な物流拠点として選ばれる最大の要因となっています。
問4	答え 1 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。	日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内でほぼ自給できていますが、小麦は海外からの輸入に頼る割合が高く、自給率は10%から20%程度の低い水準にとどまっています。しかし、国内での生産も継続されており、広大な農地を持つ北海道が最大の産地であるほか、九州地方の福岡県、佐賀県、熊本県などは全国的に見ても非常に高い収穫量を誇る重要な産地としての役割を担っています。
問5	答え 1 マングローブは、塩分を含む水域に適応した樹木群であり、独特の生態系を形成している。	マングローブは、熱帯や亜熱帯地域の河口付近など、海水と淡水が混ざり合う「汽水域」の湿地に発達する植物群の総称です。日本では沖縄県や鹿児島県の奄美大島などに自生しており、塩分に耐える特別な仕組みを持っています。多様な生物の生息地となっていることから、その豊かな自然環境はエコツーリズムなどの観光資源としても活用されています。
問6	答え 1 シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。	鹿児島県を含む九州南部には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、かつては大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）などの畜産が発展しました。
問7	答え 1 県庁所在地では路面電車の軌道を芝生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。	鹿児島県では、ヒートアイランド現象の緩和や景観向上を目的として、路面電車の軌道敷を芝生で緑化する事業が行われています。また、県庁所在地である鹿児島市周辺には火山噴出物が堆積してできたシラス台地が広がり、そこを切り開いて大規模な住宅地が造成されてきました。2004年の九州新幹線の新八代ー鹿児島中央間の先行開業以降、交通の利便性が大きく向上しています。
問8	答え 1 沖縄県	日本の多くの都道府県で人口減少が進む中、統計資料において人口増減率がプラスを示している点は非常に大きな特徴です。この地域は全国的に見て出生率が高く、自然増による人口増加が続いてきました。産業面では、離島という地理的条件から大規模な工業地帯の形成が難しいため、製造品出荷額は他県に比べて低くなりますが、温暖な気候や広大な海域を活かした畜産業や海面漁業が重要な産業となっています。
問9	答え 1 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。	地熱発電は、火山付近の地下にあるマグマの熱で温められた水蒸気を利用して発電する仕組みであり、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーとして注目されています。阿蘇山のカルデラ内には多くの人々が住み、農業も行われているため「居住が制限されている」という説明は誤りです。また、シラス台地は養分が乏しく水持ちが悪いため、かつては農業に不向きな土地とされていました。北九州工業地帯の発展は、火山地質よりも筑豊炭田の石炭と中国大陸からの鉄鉱石輸送の利便性が主な要因です。
問10	答え 1 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。	シラス台地は火砕流堆積物からなる地層であり、非常に多くの隙間があるため、降った雨がすぐに地下へ抜けてしまいます。川やため池から水を引き込むことも困難だったため、稲作ではなく、乾燥に強い作物を選ぶ必要がありました。こうした背景から、畑作や広大な土地を活かした畜産業がこの地域の主要な産業となっています。
問11	答え 1 阿蘇山	熊本県の中央部に位置する阿蘇山は、大規模な噴火活動によって形成された「カルデラ」と呼ばれる巨大なくぼ地が特徴です。このカルデラの中には平坦な土地が広がり、多くの人々が居住して農業や観光業を営んでいる点が、他の火山にはあまり見られない大きな特徴です。
問12	答え 1 野菜と畜産の両方で高い産出額を維持しており、多角的な農業経営が実現されている。	熊本県は、阿蘇の外輪山周辺での畜産や、平野部での野菜栽培など、多様な地形を活かした農業が行われています。統計においても、野菜（1,247億円）と畜産（1,147億円）という、本来は異なる形態の農業が共に出色な数値を記録しており、バランスの取れた産出構造であることが、地域の農業の安定性と強みにつながっています。